

地震に備えましょう

いつ起きてもおかしくない災害について知識を深め、それに対処する準備が大切です。地震対策について次のとおりまとめましたので、参考にしてください。

地震が発生したときには「家具は必ず倒れるもの」

阪神・淡路大震災や新潟中越地震、東日本大震災、熊本地震などでは、多くの方が倒れてきた家具の下敷きになって亡くなったり、大けがを負うなどしています。

地震では「家具は必ず倒れるもの」と考えて対策をしましょう。



- ・寝室や子ども部屋では、ベッドの近くや室内にできるだけ家具を置かないようにする。家具を置く際には、倒れたときに下敷きにならない向き、入り口をふさがない場所にします。
- ・テレビや食器棚、冷蔵庫などの大きい家具が倒れないようにL字金具やワイヤー、突っ張り棒などで固定する。
- ・枕元など手の届くところに、懐中電灯やスリッパ、ホイッスルなどを準備しておく。

その他にも、物が散乱していると、けがのもとになるだけでなく、こんろやストーブから火が燃え移る可能性があります。不要な物は捨てるなど整理整頓し、火の周りには物を置かないようにしましょう。

また、家の中の戸を閉め切らないでおくことにより、落下物や倒れてきた家具、地震による家の傾きなどで戸が開かなくなるのを防ぐことができますので、できるだけ開けておける戸は開けておきましょう。

地震が発生したときの身の守り方を知っておく

地震はいつどこで発生するか分かりません。緊急地震速報などで事前に強い揺れが来ることを知ることはできませんが、速報が出てから強い揺れが来るまでわずかな時間しかありません。

慌てず身の安全を確保しましょう。



- ・大きな家具から離れ、座布団や枕で頭を保護したり、丈夫な机の下などに隠れる。
- ・商業施設などでは、陳列棚や吊り下がっている照明から離れ、係員の指示に従う。
- ・エレベーターでは、すぐに最寄りの階に降りる。
- ・自動車運転中は、急にスピードを落とさずにハザードランプを点灯し、周囲に注意を促す。また、状況を見て道路の左端に停車し、揺れが収まるまで車内で待つ。
- ・外にいるときは、看板、ガラス、電柱、自動販売機などの落下したり倒れたりする物の近くから離れる。

ライフラインの停止や避難に備える

地震が発生したときには、水道、ガス、電気などの供給が止まってしまう可能性があります。普段から飲料水や食べ物などを備蓄し、いざというときにすぐに持ち出せるよう準備しておくことが大切です。

備蓄品および持ち出し品一覧



- 飲料水 ■ 食料品(米、パン、缶詰、ビスケット、粉ミルクなど) ■ 懐中電灯 ■ 電池
- カイロ ■ ガスこんろ ■ ストーブ ■ 灯油 ■ 毛布 ■ ティッシュ
- トイレットペーパー ■ ろうそく ■ マスク(無い場合は鼻や口を覆うハンカチ等)
- アルコール消毒液(無い場合はウェットティッシュ等) ■ 体温計 ■ 免許証 ■ 保険証
- 印鑑 ■ 救急道具 ■ モバイルバッテリー
- 10円玉を多く用意しておく(公衆電話は災害時に優先的につながるようになっています) など

他にも、家族で避難方法や避難場所、連絡方法などについて話し合い、離れ離れの場合でも、どのようなことに注意すればよいか話し合うことも大切です。

以上のことに気を付け、いつ起こるか分からない災害に備えましょう。

問合せ／防災・交通担当(内線2116・2117)